

会 議 録

会議の名称	令和元年度第3回和泉市こども・子育て会議
開催日時	令和元年10月28日（月）午前9時30分から
開催場所	和泉市コミュニティセンター4階中集会室
出席者 (敬称略)	<p><こども・子育て会議委員> 中谷会長、石田副会長、浅井委員、鳥井委員、田中委員、橋本委員、 内藤委員、弓削委員、木口委員、山口委員、一井委員、佐藤委員、 浅井委員、大場委員、樹下委員、堀川委員</p> <p><事務局> 北野こども部長、山本こども未来室長、山下保育幼稚園担当課長、 濱田こども支援担当課長、西川こども政策担当課長、 上田指導室長、阪下人権教育担当課長、尾郷生涯学習課長、 藤原健康増進担当課長、鍛冶健康増進担当総括主査、 角井こども政策担当総括主幹、藤原こども政策担当総括主査、 (株)ぎょうせい 矢野氏、伊波氏</p>
会議の議題	<p>案件</p> <p>① 第2期和泉市こども・子育て応援プランの素案について ② その他</p>
会議の要旨	<p>(1) 第2期こども・子育て応援プラン素案についての意見聴取 (2) 公立保育所・幼稚園のあり方に基づく整備方針(案)の報告</p>
会議録の 作成方法	<p><input type="checkbox"/>全文記録 <input checked="" type="checkbox"/>要点記録</p>
記録内容の 確認方法	<p><input type="checkbox"/>会議の議長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/>出席した構成員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/>その他（ ）</p>
その他の 必要事項	<p>会議公開（傍聴者1名）</p>

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 開会

事務局から会議を公開で開催する旨を説明。

2. 委員の委嘱

委嘱状を交付（机上配布）。

3. 委員・職員の紹介

事務局から委員及び職員を紹介する。

4. 会長・副会長の選出

中谷委員を会長に、石田委員を副会長に選出する。

5. 案件

（会長）

本日の会議の資料や会議録の公表について、委員名簿は氏名を公表し、会議録作成にあたり、本会議の個々の発言の要旨については単に委員と表記し要点をまとめ、各委員に事務局より確認後、私に一任いただいてもよいか。

（委員）

【異議なし】

（会長）

それでは、案件①第2期和泉市こども・子育て応援プランの素案について、事務局に説明を求める。

（事務局）

資料2「第2期和泉市こども・子育て応援プラン（素案）」に基づき、（株）ぎょうせいより説明。

（会長）

意見を求める。

（委員）

前回の会議でも申し上げたが、第2期の計画では量の確保とともに質の向上が大事だと思っている。我々の園は幼稚園由来の認定こども園で従来の幼稚園の時は3歳から5歳児を預かっていた。認定こども園になって0歳から2歳児も預かるようになったが、2歳から3歳に上がる時に分断されているように感じる。0歳から2歳児はアタッチメントなどの形成でとても大切な時期で将来の生きる力に繋がるとも言われており、現場でもどうやって繋いでいくのがよいか考えている。就学前から小学校に上がる時、小学校から中学校に上がる時も同じようなことが起こっていると思う。和泉市内における保・幼・小・中関係の取組みについて、教えてほしい。

（事務局）

保・幼・小・中の連携については、小・中の連携により、平成29年度から小・中一貫教育がスタートしている。具体的には、中学校区ごとの研修の日を設定して、各中学校区でどのような一貫した取組みができるかというところを進めている。具体的にこれが特効薬というものではなかったが、月1回の学校区ごとの研修日に顔をあわせて話をする中で、少しずつ進んできたと考えている。保・幼と小学校の連携についても、こども未来室の研修に小学校が

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

参加したり、指導室主催の研修に保育園、幼稚園に参加していただいたり取組みをスタートしたところである。

（会長）

小学校、中学校の先生に連携への繋ぎや小学校1年生に入った時にどのような姿があるか等、声を聞かせていただきたい。

（委員）

小学校では、スタートブックを作っている。幼稚園、保育所での生活と小学校生活は全然違うので、非常にギャップがあるということを予測して、こういう学校生活があるというのをあらかじめ、冊子に作って保護者に配りながら、学校の説明会の時にも説明している。

（委員）

小・中一貫教育を始める前は、中学校の教師も小学校の教員がどういう方がおられるかほとんど分からない状況で、完全に別々の状況でやっていたが、小・中一貫教育が始まってから、かなり小学校と中学校の教員間で話をする機会が増えてきた。今は中学校で困ったらすぐに小学校に連絡して、細かいところを聞いているので、以前であれば不登校に入ってしまう子どもを上手に小学校の先生にアドバイスをいただきながら、不登校にならずに中学校生活が続けられる子どもが増えてきている。中学校の教師としては、高校とも繋いでいかなければいけないので、かなり細かく子どもの情報を伝えて、こういうところを配慮してあげてほしいという引継ぎはやっている。高校へ入ってから学校を辞める子どもがかなりの人数いるので、高校との接続も中学の教師としては考えていかなければいけないと思う。

（会長）

2歳から3歳への接続について、他の委員の意見はどうか。繋ぎは分断されていないか。

（委員）

2歳から3歳への接続について、私の園は認定こども園になる前は保育園だったが、0歳から5歳までずっと成長を見守っていくという形だったので、分断されていると言われると、そこまでは感じていない。話は変わるが、少子化は全国的に進んでおり、一つ思うのが、北部地域の中で、若い人たちも呼び込めるような仕掛けやイベントがあってもいいのかなと思う。このまちで住んでよかった、このまちで育ってよかったなど、他の人と関われる、交流できるようなイベントがあってもいいのかなと思う。

（委員）

私は保育所の中で2歳から3歳に移行する時に分断されている意識はない。幼稚園と保育園の交流、また、小学校との交流も増えてきたように思う。数年前は、幼稚園は幼稚園、保育園は保育園、保育園が終わったから次は小学校とぶつ切れというイメージがあったが、いま、教育要領も改訂されて、生まれた時から幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校とずっと繋がっての成長であるというところで近隣の小学校とも交流を深めていきたいと思っている。保育園の中では、小学校の先生にお願いしてどこかの授業を見学させてほしいとお願いしたこともあり、そうやって交流を持つことで幼稚園、保育園、小学校はこういうところだなというところも分かたり、また反対に小学校の先生方に幼稚園、保育園はこういうところだからと説明してもらい、子ども達と繋がっていく中で、スムーズに繋がるようにしていくのが大切な事で

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

はないかと思う。

（会長）

幼・保・こども園と小学校、中学校との連携をもっとスムーズにしていくことで、子どもの成長を見通した教育、保育が展開されるのかなと思う。それをやるには、個々の学校や施設に任せるのではなく、何らかの枠組みが必要ではないかと思う。

（委員）

保育園や小学校に行くこともしんどい子どもの対策について、特にシングルマザーの実態がどうなっているのか。実際にどんな生活をしているのかこのアンケートからは見えていない。具体的に言うと、1日に3食を食べている子どもがどれくらいいるのか、食べられない子どもがどの程度いるのか調べて食べられるような方法を考えていくのが政策に繋がっていくのではないかと思う。シングルマザーとかひとり親の子育てについて行政も懇談会などで意見交換を行えば、もっと具体的に政策ができるんじゃないかなと思う。

（会長）

特にひとり親についてのご意見だったと思うが、ひとり親に対する実態把握の方法が今後、市でどう計画されているのか見通しがあれば教えてほしい。それと養育費の問題等の対処について回答できるところで結構ですので答えていただきたい。

（事務局）

今回、こども・子育て応援プランということで、子育て支援施策全般のニーズ調査を行っており、所得などの細かいところは把握できていない。貧困対策については、実態把握も含めて、今後、考えていかなければいけないと思っている。

養育費については、市としては、ひとり親の就労支援などの相談は受け付けているが、養育費まで踏み込んで相談を受け入れていない状況にある。養育費に関しては、無料の法律相談を紹介しているというのが現状である。

（委員）

和泉市の子ども会は何件あるか。今後、子ども会によって、交流ができたり、見守りや子育てといろいろできるのではないかと思う。

（委員）

子ども会の件数は学校ではわからない。見守り隊は、国府小学校の校区など、自分の意思でボランティアをされている方がいる。ただし、高齢化と言うのは一部出てきている問題で、後継者がいない現状があると思う。

（会長）

学校で何か方針や対策を立てているということはないか。

（委員）

あくまでもお願いするものなので、学校によって見守り隊の校区によって見守り隊の組織がある校区と組織がない学校がある。ある校区は見守り隊を老人会にお願いするようにしているが、校区によっては老人会に入っていないというメンバーがいるのだけれど、実際には活動し

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

ていないという町会もあると聞いている。

（事務局）

市協議会に加盟している子ども会は平成 30 年度末で、全 21 小学校区中 14 校区にあり、単位でいうと 44 の子ども会に全 1,885 人の児童が在籍している。おっしゃる通り解散する子ども会もあり、年々会員数も減っている。理由としては親の負担というところが一番大きいと聞いている。

（委員）

お話のとおり現在子ども会は減少している。私のいる地区でも 3 年後まで継続できるかというくらいの状況にある。子どもの保護者に加入をお願いするが、仕事をしているため役員ができないということで、継続が不可能になってきているところも多い。地域の方によって子ども達の命が、守られている状態というのが、本当に申し訳ないといつも思うが、子ども会に関して、今後の活動にいつも悩んでいるところだが、役員をする人がいないので継続が不可能であれば、形を変えていくことも考えていかなければいけないと思う。

（会長）

子ども会単独の問題ではなくて、自治会や子ども会など地域住民の活動の全体的な問題として、何か施策に反映できればいいと思う。

（委員）

平成から令和にかけて、学校はだいぶ変わったと思うが、一番大きかったのは高校の無償化から始まったと思う。また、今年 10 月から、幼稚園・保育園の無償化が始まっている。無償化になったからといって、冷房など設備の整備にお金をかけるなどもっとお金の使い方を考えていかないと、保護者の費用負担が増えるということにもなりかねない。無償化について、お金をどこにどう使っていくのか、誰にどう使うのか、子どもに使うのか、親に使うのか、学校だけに使うのか、しっかり考えていただきたいと思っている。

（委員）

児童虐待の問題について、鹿児島県で虐待によって親に殺されたという悲惨な事件があり、私が調べたら 2018 年度に 16 万件の児童虐待に関する相談や通告があったと新聞に出ていた。虐待について、相談だけでなく、見た人が通報などできるようなシステムづくりなどしていただければありがたいと思う。

（委員）

私は、発達障がいのお子さんに多くお会いしており、色々な個性、特性を持たれた方に会ってきたが、障がいを持つ子どもが増え続けているという実感をしている。増え続けているという原因は、私が聞いた限りでは 3 つくらいあると言われているが、原因が何であれ、問題はそういう症状や特性を示すお子さん達が困らないようにどういう支援をしたらいいのかということが、一番大切なことだと思うが、なかなか難しい状況にある。この和泉市でもいろいろな研修を保護者向けにしたり、教職員向けに実施していて、本当に多種多様な支援が必要とされてい

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

る。

また、特別支援教育の完全実施から 12 年ほど経ちますが、それほど最初に期待したほどの効果はまだあらわれていないのが課題になっている。いろいろな取組みが全国でされている中で、発達障がい児を含めた特別支援教育を進めることによって、いわゆる非行や不登校の子が確実に減ったという報告がされている。和泉市もそういう実感を持っているかもしれませんが、支援をさらにいっそう進めていただきたい。

（委員）

子育て支援の部分で、計画に書いていただいている内容について特に意見はないが、やはり進捗状況はきちんと見ていきたいと思う。

（会長）

本日、いただいた意見に基づき、素案を修正し、素案の確定は私に一任いただいてもよいか。

（委員）

【異議なし】

他に意見がないようであれば次の案件に移る。

報告案件①について、事務局から説明願う。

（事務局）

資料 3 「公立保育所・幼稚園のあり方に基づく整備方針（案）」に基づき、説明。

【委員の意見なし】

（会長）

他に意見がないようであれば、審議終了とする。事務局から、その他連絡事項はないか。

（事務局）

素案の確定後は定例教育委員会、市議会に報告のうえ、1月に市民パブリックコメントを予定している。次回の会議はパブリックコメント終了後の2月中旬頃を予定している。

（会長）

これをもって令和元年度第3回和泉市こども・子育て会議を閉会する。